



平成27年3月13日
内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会（第1回） 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成27年2月17日（火）

場所：中央合同庁舎第8号館 災害対策本部会議室

出席者：阿部座長、今村委員、入倉委員、岡村委員、佐竹委員、谷岡委員、橋本委員、平川委員、平田委員、古村委員、松澤委員、翠川委員、三宅委員
日原政策統括官、兵谷官房審議官

2. 議事概要

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震について、事務局や文部科学省地震・防災研究課から説明した後、谷岡委員から北海道における最大クラスの地震による津波の検討状況をご説明頂き、その後、委員間で議論を行った。委員からの主な意見等は次のとおり。

- 議事録の公開は、検討会議終了1年後を目途とし、発言者名を記して公開する。
- 津波堆積物については、前回の中央防災会議専門調査会の時点での北海道東部のみでなく、北海道南部、東北の広い範囲で調査が行われており、これら最近の調査資料を収集・整理する必要がある。
- 津波堆積物の調査結果から浸水範囲の評価は困難な可能性があることに留意するべきである。
- 最近の研究に、日本海溝沿いの応力の状態が東北地方太平洋沖地震以前の状態に戻った可能性を示唆するものがある。M9クラスの地震がすぐ起こるとは考えにくいだが、この領域での地震を検討する上で、最近の研究をレビューすることが重要である。
- 最大クラスの地震の検討において、防災対策の観点から、検討対象とする地震の発生間隔を明確にすることが重要である。
- 防災対策の検討対象の地震としては、最大クラスの地震のみならず、M8クラスの地震等も対象とすべきである。
- 次に発生する地震の規模や場所は分からない。次に発生する地震が最大クラスの地震であるとの誤解を与えないようメッセージを出すことが重要である。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 名波 義昭

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 平 祐太郎

TEL：03-3501-5693（直通） FAX：03-3501-6820